

(別紙)

成果の説明書

(氏名)藤井孝宗	(学部)経済
<p>1 重要事項</p> <p>本年は 2017 年度より開設予定の経済学部国際学科の学科長予定者として学内業務が劇的に増えた関係から、研究活動にある程度の制約がかかり、十分な研究成果を上げることが出来なかった。学務と研究の両立については今後の課題としていきたい。</p> <p><研究></p> <p>本年は昨年度科研費研究プロジェクトの研究を元とした運輸サービスのコスト削減と国際貿易との関連に関する研究を引き続き行い学会・ワークショップなどで発表した。さらに、本年度から新たな試みとして、JSPS 科研費 15K13015「観光立国による経済発展の可能性に関する経済理論の構築及びその実証」(萌芽的研究：研究代表者名古屋大学経済学研究科柳瀬明彦教授)の共同研究者として、主に観光と地域の関係や経済的影響を中心とした、地域経済に関する研究を始めた。また、本学地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地方都市における製造業の存立基盤に関する研究：群馬県を事例として」(研究代表者：地域政策学部西野寿章教授)のプロジェクトメンバーとして、高崎市に立地する中小部品メーカー(プレス工業)の於かれている経済環境や競争のための取り組みなどに関する調査を行った。これらの地域経済に関する研究は、本来の専門である国際経済学とは多少外れたものにはなるが、地域公立大学に奉職しているからにはある程度研究面でも地域貢献の一助となるようなものにも取り組むことは、悪いことではないであろう。研究成果としては、以下の論文、研究ノート、学会への報告がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 藤井孝宗(2017)「中小プレスメーカーの環境と戦略：斉藤プレス工業とシミズプレス」『地方製造業の展開：高崎ものづくり再発見(高崎経済大学地域科学研究所編)』第8章, pp.148-170 (2017年3月)・ 藤井孝宗(2017)「海外からのインバウンド旅行者の国内消費行動に関する考察：RESAS ビッグデータに基づく定量的把握」『産業研究(高崎経済大学地域科学研究所紀要)』52.2, pp108-121 (2017年3月)・ Mariko FUTAMURA & Takamune FUJII (2016), “Automobile Tax System and Preference Shifting: Case of Japan”, paper presented at <i>the 56th European Regional Science Association (ERSA) World Congress “Cities & Regions: Smart, Sustainable, Inclusive?”</i>, 23-26 August 2016 at Vienna, Austria・ Takamune FUJII (2016), “Passenger Transportation Services Facilitation and Global Value Chain in East Asia”, paper presented at <i>the 56th European Regional Science Association (ERSA) World Congress “Cities & Regions: Smart, Sustainable, Inclusive?”</i>, 23-26 August 2016 at Vienna, Austria <p>また、自身の論文執筆・報告以外に、以下の学会・研究会に座長、討論者、セッション参加者として参加し、当該研究領域の専門家との意見交換・討論を行い知見を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第109回日本観光学会全国大会(2016年6月11日、於青山学院大学)(セッション座長及び討論者として参加)・ 日本経済学会 2016年度春季大会(2016年6月18-19日、於名古屋大学)・ 日本応用経済学会 2016年春季大会(2016年6月25-26日、於広島大学)・ The 5th Ryukyu Economics Workshop(2016年7月11日、於沖縄大学)・ The 56th European Regional Science Association (ERSA) World Congress “Cities & Regions: Smart, Sustainable, Inclusive?”(2016年8月23-26日、於Vienna University of Economics and Business)(研究報告以外にセッション座長として参加)	

- ・ 観光経済経営研究会 2016 年度第 1 回研究報告会 (2016 年 9 月 3-4 日、於神戸学院大学) (討論者として参加)
- ・ 日本経済学会 2016 年度秋季大会 (2016 年 9 月 10-11 日、於早稲田大学) (討論者として参加)
- ・ Nagoya International Economics Study Group (NIESG) 46th Meeting (2016 年 9 月 24 日、於福島大学)
- ・ 第 75 回日本交通学会研究報告大会 (2016 年 10 月 8-9 日、於一橋大学一橋講堂) (討論者として参加)
- ・ 第 75 回日本国際経済学会全国大会 (2016 年 10 月 29-30 日、於中京大学)
- ・ 第 110 回日本観光学会全国大会 (2016 年 11 月 26 日、於福知山公立大学) (セッション座長、討論者として参加)
- ・ Nagoya International Economics Study Group (NIESG) 47th Meeting (2016 年 12 月 10 日、於愛知学院大学)
- ・ 観光経済経営研究会 2016 年度第 2 回研究報告会 (2017 年 1 月 7-8 日、於南山大学) (討論者として参加)
- ・ 2nd Bari-Chukyo Agreement One Day Workshop (2017 年 3 月 10 日、於中京大学)
- ・ 日本観光学会 2016 年度関東支部総会・研究報告会 (2017 年 3 月 11 日、於実践女子大学)
- ・ 観光経済経営研究会 2016 年度第 3 回研究報告会 (2017 年 3 月 27 日、於南山大学) (討論者として参加)

<教育>

今年度も昨年度に続き、ゼミにおいて学内他ゼミとの合同研究発表会 (合同ゼミ夏合宿において) および他大学ゼミとのインターゼミ研究報告会を行い、学内他ゼミの学生や他大学のゼミの学生との研究交流を行うとともに、グループ研究・発表のスキルを高めた。学内合同研究発表会については、8 月 19-21 日に水上温泉郷において、経済学部秋朝ゼミ、高松ゼミ、山森ゼミ、地域政策学部岩田ゼミ、中村ゼミとの合同ゼミ夏合宿を行い、各ゼミのグループ研究成果の発表、討論を行った。他大学とのインターゼミについては、12 月 17 日に法政大学に於いて、横浜市立大学国際総合科学部太田ゼミ、東洋大学経済学部隅田ゼミ、法政大学経営学部高橋ゼミ、麗澤大学経済学部溝口ゼミとの合同研究発表会を行い、各ゼミのグループ研究成果の発表、討論を行った。どちらもゼミ内にこもって勉強しているだけでは得られない対外交流の機会、研究・発表スキル改善の機会となり、非常に有意義であった。その他の講義科目については例年通りである。また、その他の教育関連業務として、7 月 17 日に開催された本学オープンキャンパスにおける国際経済に関する講義、高校への出張講義 (10 月 10 日於矢板東高校、11 月 17 日於前橋西高校)、および本学地域科学研究所主催の高崎経済大学第 33 回公開講座 (ぐんま県民カレッジ連携講座)「現代社会への多面的アプローチ」第 3 回講義講師 (講義タイトル: アジア太平洋地域の地域構造再編と日本・TPP とその後) などを行った。

<学内業務>

既述の通り、2017 年度新規開設予定の国際学科学科長予定者として、様々な設置準備作業を行った。具体的には、カリキュラム作成、新規教員採用のための人事計画策定および採用業務および採用内定者との各種調整、学科の目指すべき方向性および各種ポリシー (ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーなど) の策定、新学科設置に関わる各種広報業務 (学科紹介文の作成、HP における学科説明、学内出版物 (学報、新入生向けガイド、履修要綱など) への原稿執筆など)、新規採用教員 (予定者) にたいする各種ガイダンス、学科カリキュラムにおける海外派遣プログラムの策定および契約業者と

の交渉・選定等に関わった。その他の委員会などの学内業務については下のその他の事項欄に記載する。また、学科カリキュラム作成の一環として、学科学生のゼミ選択システムの見直しと新しいゼミ選択システムの導入を目指し、公立はこだて未来大学における先進的な卒論指導教員選択システム(Gale-Shapley Algorithm を応用した教員=学生マッチングシステム)の視察、調査を行い、本学新学科において同様の取り組みを行う場合どの程度実現可能性があるかについて検討した。

2 その他の事項

1.で記載したとおり、学内業務として、2017年度開設予定の経済学部国際学科の設立準備のため新学科設置委員会委員としておよび学科長予定者として多くの業務をこなしたことにくわえ、学部人事業績審査委員（昇任人事業績審査委員長、新規採用人事業績審査委員長×2）、学部教務委員会委員、学部入試課題検討委員会委員、研究科自己点検評価委員会委員、各種入試業務（地方会場入試における会場責任者含む）などを行った。

3 次年度以降の計画・抱負

2017年度は既述の通り本学経済学部到新学科として国際学科が設置され、その学科長に就任予定である。国際学科の成功のために努力する所存である。学科開始に伴い本年度入学生に国際学科に興味を持って入ってもらうための様々な仕掛け・努力が必要になるとともに、来年度以降の受験者確保のための広報活動と受験生の開拓も急務となる。国際学科という学科である以上、国際交流の機会を積極的に学生に提供する必要がある、短期・長期語学留学プログラムの策定、海外フィールドワークやインターンシップなどの単位化など国際交流・海外体験へのインセンティブづくりやプログラム策定、海外提携校の拡大と交換留学制度の拡充など、これまで本学が他大学と比べ遅れていた分野を来年度は大幅に改善していかなければならず、課題は山積している。学内各部署と連携しつつ課題解決に取り組んでいきたい。また、学科のカリキュラムや諸制度などもある程度完成してはいるものの実際おこなってみてはじめて出てくる課題、問題などは数多いであろうと想像されるため、これらの問題解決、各種調整などの業務もこなしていく必要がある。何とか新学科をうまく軌道に乗せて中長期的な本学の発展に寄与できるよう努力していきたい。

研究面では、本来の専門領域である国際経済分野の諸研究に加え、引き続き次年度も観光や地域経済活性化などのテーマに積極的に挑戦していきたい。地方公立大学で働いている以上、このような研究を行い何らかの形で地域貢献を行うことは悪いことではないと思う。